

一般会計

5年連続で財政規模縮小

平成14年度決算より



未来を担う子どもたちのために住みよい町づくりを目指します

平成十四年度一般会計と特別会計決算が九月定例議会で認定されました。大規模事業の終了や事務事業の見直しなどにより歳入が四十三億円(前年比マイナス13.9%)に抑制されましたが、歳入では、依存財源(地方交付税や国・県支出金、町債など)が全体の約82%を占めており、依然として厳しい財政状況となっています。今回は一般会計の決算概要を中心にお知らせします。

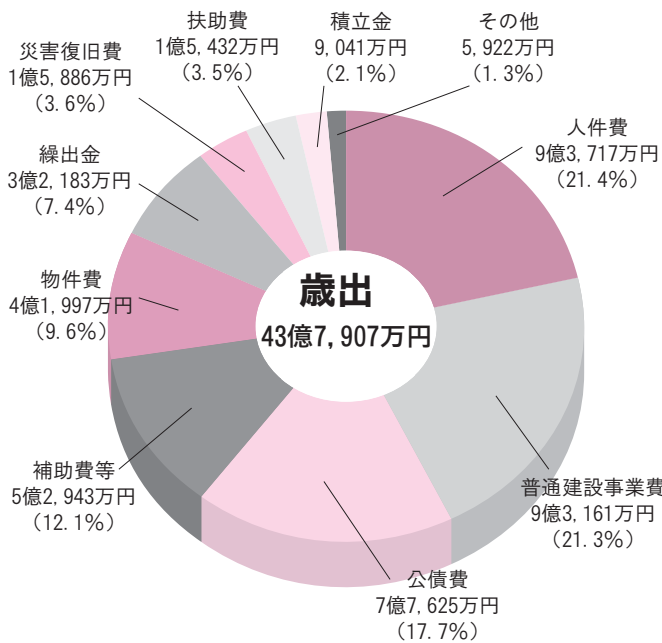
一般会計支出総額43億円

一般会計決算額は、歳入では四十四億八千三百二十二万円で、前年度と比較して七億二千三百八十七万四千円(前年比マイナス13.7%)の減少となりました。

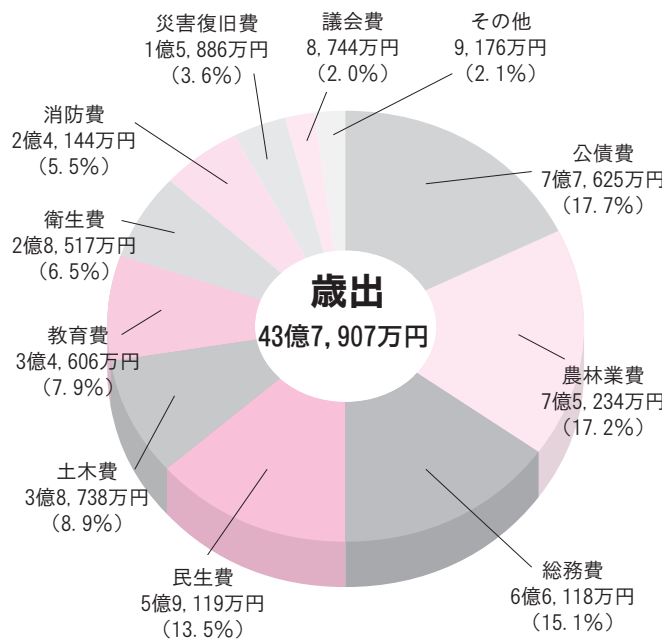
これは長引く景気の低迷などによる町税収入の落ち込みのほか、地方交付税、国・県支出金などが減少したことによるものです。

歳入は、四十三億七千九百七十四万四千円(前年比より七億八千四百四十四万四千円(前年比マイナス13.9%)の減少となりました。これは、世田米保育園の改築や木材加工施設整備などの大規模事業が終了したことや事務事業の見直しにより歳入の抑制に努めたこと

平成14年度 一般会計歳出内訳(性質別)



平成14年度 一般会計歳出内訳(目的別)



主な財政用語(性質別歳出科目)

- 普通建設事業費：道路、学校、公共施設の新増設など建築事業に必要な投資的経費
- 人件費：職員給与、特別職や議員、各種委員の報酬など
- 公債費：国などから借りたお金を返済するための経費
- 補助費：負担金や補助金、各種保険料など
- 物件費：賃金、旅費、事務用品の購入、光熱水費、業務委託費など
- 繰出金：国民健康保険事業会計などの特別会計に支出する経費
- 扶助費：児童福祉法、老人福祉法などに基づいて被扶養者に支給する費用
- 積立金：財政規模や税収に応じて積み立てる経費(基金)

が進められています。地方交付税に頼るところが大きい本町は、国の見直しの動向次第では、財政状況が大きく左右される可能性があります。

林構事業に3億4千万円
事業費が最も大きい事業は、木材加工施設の整備を行った林業構造改善事業(主なる事業)で、額は次ページのとおりで、支出を義務付けられた経費を義務的経費といいますが、人件費、扶助費、公債費(借入の返済金)がそれに該当します。人件費は昨年引き続き抑制されています。

▶町民一人当たりの歳入

621,371円

項目	金額
給料(町税)	59,277円
預金の引き出し(繰入金)	5,877円
貸地収入(使用料及び手数料)	22,922円
前年度の残金(繰越金)	14,972円
実家からの定期仕送り(地方交付税など)	341,065円
実家からの臨時の援助(国・県支出金など)	104,078円
銀行からの借入れ(町債)	64,781円
その他	8,399円

▶町民一人当たりの歳出

607,192円

項目	金額
食費(人件費)	129,946円
仕送り(繰出金)	44,625円
光熱費や生活用品の購入(物件費)	58,232円
ローンの返済(公債費)	107,633円
医療費(扶助費)	21,398円
家のリフォーム(建設費)	129,176円
貯金(積立金)	12,536円
その他	103,646円

※歳入と歳出の差額は翌年度に繰り越しとなります。

公債費は二千二百万円(前年比2.7%)減少していますが、扶助費が千七百円(前年比12.6%)増加しています。全体では五千五百円(前年比2.9%)の減少となっています。

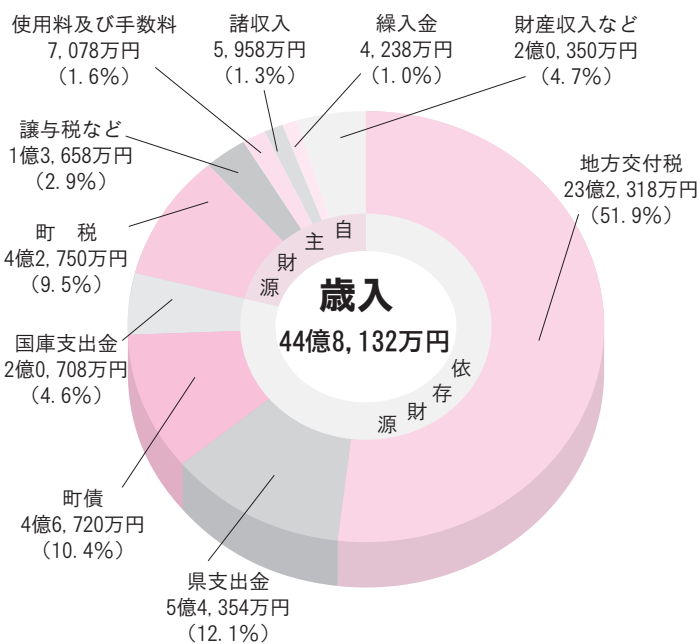
義務的経費は、早急な削減が難しい性質のものであり、歳出全体に占める割合が多くなると、他に使えるお金が少なくなり、町の財政状況に余裕がなくなっています。

これらの状況を見極めながら、自立・持続のまちづくりのため、本年度の予算執行、来年度の予算編成に生かしていきます。

平成14年度 特別会計決算の内訳

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	6億9,757万円	6億9,390万円
老人保健	10億2,259万円	10億5,102万円
簡易水道事業	1億8,523万円	1億8,015万円
下水道事業	4億0,230万円	4億0,050万円
介護保険	4億7,769万円	4億6,587万円

平成14年度 一般会計歳入内訳



自主財源比率は17.9%
歳入のうち町独自で確保できる自主財源は、皆さんから納めていただいている町税、基金からの繰入金、使用料、手数料などです。自主財源が多いほど

収入比率が一番大きい地方交付税は、町の収入全体の半分を占めています。現在、県や市町村への配分方法などを見直し

由に使えるお金が多いことになりませんが、歳入全体に占める割合は17.9%です。一方、地方交付税、国、県からの負担金や補助金などの依存財源は82.1%で、これらに大きく依存しているのが現状です。

道路整備や施設整備などの事業は、国、県からの補助金や借入金(町債)により賄われていますが、大規模な事業が終了したことにより歳入総額は大幅な減少となりました。

出店者が語るフリーマーケット



横澤 祐美さん
(高校3年生:清水沢)

高校の先生の紹介で参加してみました。出店は初めてでしたが、商品を通じて、多くの人と楽しくお話することができました。これは、参加して知った、フリーマーケットの大きな魅力のひとつです。今度は、友だちも誘って参加したいと思います。

会場の雰囲気や売り手と買い手のやりとりが楽しくて、フリーマーケットにはよく足を運んでいます。

今回、世田米地区では初めての開催。お客さんにまだ、なじみが薄いのか、遠まきに眺めていく方も…。多くの人に“フリマの魅力”を体験してもらいたいため、次の開催を望みます。



古賀 美保子さん
(主婦:山脈地)



多くの人でにぎわうフリーマーケット

「おらだちのまちづくり情報」では、町民の皆さんのまちづくり・地域づくりへの取り組みをお知らせしています。お問い合わせは企画財政課地区振興室(☎46-2111内線161)まで

「おらだちのまちづくり情報」では、町民の皆さんのまちづくり・地域づくりへの取り組みをお知らせしています。お問い合わせは企画財政課地区振興室(☎46-2111内線161)まで

「おらだちのまちづくり情報」では、町民の皆さんのまちづくり・地域づくりへの取り組みをお知らせしています。お問い合わせは企画財政課地区振興室(☎46-2111内線161)まで

委員らは、地域住民が主体となった金山町のまちづくりの手法を研修し、今後の世田米地区のまちづくりに思いへの新たにしました。



講演に熱心に耳を傾ける参加者

(7) 平成15年10月25日 広報すみた

世田米地区で

まちづくりの動きが加速

せたまいまちづくり推進委員会(佐々木義郎会長)が、住民の主体的参加を促進するため「フリーマーケット」を開催。また、地域づくり先進地の視察を行いました。今月は、その動きを紹介します。

主体的参加のきっかけに
せたまいまちづくり推進委員会の「フリーマーケット」が九月十七日、住田郵便局前で行われました。フリーマーケットは、不要品の

おらだちのまちづくり情報

「おらだちのまちづくり情報」では、町民の皆さんのまちづくり・地域づくりへの取り組みをお知らせしています。お問い合わせは企画財政課地区振興室(☎46-2111内線161)まで



関係者の話に耳を傾ける推進委員

山形県金山町に視察研修

また、十月四、五日には、同推進委員や町職員十九人が参加し、山形県金山町への視察研修が行われました。

初日は、自然(ねん)フォーラムINかねやまに参加。農業や環境、またそれを生かした町づくりについて聴講しました。

二日目は、同町西郷地区振興会議との交流、意見交換会が行われ、廃校になった学校の活用方法や産地直送活動などについて研修を行いました。その後、同町が設置する、町並み案内人による視察を行い、美しい町並みを見学しました。

地区別計画の動きを紹介
下有住地区支援委員会
同地区支援委員会(吉田洋一委員長)では九月三十日、東日本機電開発株式会社農業環境研究所長・本間光義さんを招いての講演会が行われました。これは同地区別計画の「みどり(環境保全)」と地域農業の活性化を図るために行われたもので、会場となった下有住児童館には地域住民など三十六人が参加しました。

講演に熱心に耳を傾ける参加者

何に使われたの？ 私たちのお金

～一般会計43億円は主に次のような事業に使われました～

総務費

●新エネルギー導入推進事業(木質バイオマス資源利用に向けた検討調査及び普及啓発)
957万円

●電算化事業(住民情報処理、財務会計、住民基本台帳ネットワークなどのシステム整備)
1,668万円

●電子自治体推進事業(電子自治体を構築するため庁内端末などの整備)
4,036万円

●住田い町づくり事業費補助金(地域の個性ある活動や活性化につながる事業への補助)
583万円



民生費

●身体障害者保護措置費委託料(身体障害者の施設入所や通所を支援)
3,575万円

●老人福祉事業(高齢者の在宅サービスや社会参加、生きがいを支援)
4,485万円

●町社会福祉協議会運営費補助金
1,119万円

●介護保険特別会計繰出金
6,664万円

●児童措置費【児童手当】(第1、2子に5千円、第3子以降に1万円を支給)
1,531万円

●保育所運営費
5,566万円



衛生費

●健康診査事業(基本健診、前立腺、大腸がん、肺がんなど各種検診を実施)
1,806万円



●大船渡地区環境衛生組合負担金(ごみの共同処理経費)
1億1,677万円

●気仙広域連合負担金(し尿処理の共同処理経費)
1,458万円

農林業費

●中山間地域等直接支払交付金(急傾斜農地などで協定を締結し生産活動を行う集落への交付)
1,473万円

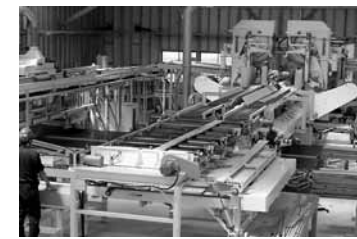
●いわて農業担い手支援総合対策事業補助金(各種組合が整備した農業生産施設や生産管理用機械、流通加工施設整備への補助)
751万円

●農村振興地理情報システム整備
4,485万円

●農林会館建物改修工事
3,565万円

●町有林造成事業(植栽、下刈、除間伐、忌避材散布などを実施)
8,739万円

●地域林業経営確立林業構造改善事業費補助金(協同組合さんりくらんぱー施設整備への補助)
3億4,306万円



商工費

●滝観洞観光センター水道施設工事
5,750万円

土木費

●町道新設改良工事(葉山上大畑線の改良工事、二度成木船作線の用地購入、田畑線の測量設計業務委託など)
1億3,612万円

●町営住宅建設事業(川向第一団地に3棟新築)
8,801万円

消防費

●大船渡地区消防組合負担金
1億7,943万円

教育費

●小学校費(各小学校への備品整備)
5,861万円

●中学校費(各中学校への備品整備)
4,419万円

●自治公民館育成事業(自治公民館活動への補助)
440万円

●体育施設管理(社会体育館、生涯スポーツセンターの維持管理と管理人委託など)
1,779万円

災害復旧費

●公共土木災害復旧(河川災害2件、道路等災害4件を復旧)
1億1,552万円

●農地、農業用施設災害復旧(施設、農地災害9件を復旧、32件に復旧への補助)
2億3,432万円

●林業施設災害復旧(林道災害4件を復旧)
7,072万円

広報すみた 平成15年10月25日(4)

障害克服し自立更正が評価

第四十六回県身障者福祉大会、県身障者福祉協会など主催は九月三十日、遠野市民センターで行われ、席上、豊もたえ(勇さん)「向村」が自らの障害を克服し、自立更正に努力したことが評価され、県知事表彰を受賞しました。

豊さんは中学三年生当時、倒れてきた木の下の敷きとなり左の手足が不自由に。また左足は、その事故がもとで義足生活を余儀なくされました。

その後、仙台市の身障者訓練施設に入所し、そこで一年間、洋裁の基礎を学び、退所後は、大船渡市、気仙沼市などの洋服店で十五年間の厳しい修行時代を経験しました。昭和四十九年には、世田米商店街に「高級注文服・テーラーモタエ」をオープン。五年ほど前には、現在の向村に店を移転し、今日に至っています。

仕事場では、友人や地域住民などから祝福の電話が鳴り響く中、豊さんは、これまでも振り返ると、つらいこともたくさんありました。それでも、周囲の皆さんの協力があり、ここまで頑張ってきた。今回の表彰は皆さんで受けたものです」と感謝し、また「これからも自分のペースでこの仕事を続けていきたい」と話していました。



受賞の喜びを語る豊さん

意欲的に造園技能を習得

社団法人県シルバー人材センター連合会が主催する造園講習会が九月二十五日から八日間にわたり行われました。

講習会は、五十五歳以上の就業希望者が対象。本町と陸前高田市から十五人が受講し、造園技能の習得に励みました。

初日の開校式に続き、二日目からは世田米、下有住両小学校の庭木で実技講習。受講生らは「基本をしっかりと学び、今後の仕事に役立てたい」と話しながら、講師となった佐々木信一さん(佐々木園芸)「中村」らの指導に熱心に耳を傾けていました。



真剣な表情で実技に励む受講生

32年ぶりに青空市が復活



多くの人出でにぎわう青空市

世田米商店会菅野義保会長(主催)の「秋の青空市」が九月二十七日、JA陸前高田市世田米支所の駐車場で開催されました。

これは、同会が商店街に昔のにぎわいを取り戻そうと三十二年ぶりに企画したもので、快晴となったこの日は、食料品や衣料品、農産物など十三店が出店。昔ながらのチンドン屋も登場し、イベントを盛り上げました。会場には、子どもから高齢者まで多くの人を訪れ、格安で販売された商品を買って求めています。

ナイターリーグ熱戦に幕



一般の部で優勝したみちのくタイガース

七月から四カ月間にわたり運動公園、有住中学校で行われていたナイター野球リーグの全日程が終了しました。

十八回目を数える同リーグには、一般の部に九チーム、OBの部四十歳以上に五チームが参加し、数々の熱戦が繰り広げられました。

一般の部では、みちのくタイガースが二年連続で、OBの部では大股体協OBが初優勝を飾りました。



珍しい話題などがありましたら総務課行政係へご連絡を。
☎21111内線115

下小児童が収穫の秋体感



→全校児童により稲刈りが一斉にスタート



↑脱穀を体験する児童

下有住小学校大友たつ子校長・全校児童五十三人(で十月十六日)稲刈り体験が行われました。

これは本年五月、児童らの手により植えられたもち米の苗が、無事、収穫期を迎えたことから実施されたもの。

児童らは、訪れた祖父母らに手ほどきを受けながら、丁寧に稲を刈っていました。

刈られた稲は、児童らによりはせに掛けられ、さらに高学年は、昔ながらの「足踏み脱穀機」による作業も体験。

体験を終えた児童らは、泥に足をとられ転んだりしたけど、楽しかった「家でも稲刈りの手伝いをしていきたい」と話しながら満足げ。

水田の管理にあたってきた佐藤寿次さん(「中上」は「今年」は天候不順が心配されたが、思ったよりも出来のよい米が収穫できそうです」と話していました。

同校では収穫された約百kgのもち米で十月二十七日、収穫祭を行うことにしています。

また、この日は若手めいこテレビも取材に訪れ、この模様は、いわてっ子パンザイ(十一月二十九日午後4時15分から)で放映される予定です。

みちプロ9年ぶりの見参

ザ・グレート・サスケさんが所属する、みちのくプロレスの住田大会が十月十四日、生涯スポーツセンターで開催されました。

九年ぶりの来町となったこの日は、全五試合が展開され、子どもから高齢者まで約五百五十人の観衆は、笑いあり、激しさありの「みちプロワールド」を堪能しました。

初めてのプロレス観戦という千葉俊平くん(小六)「奥火の土」は、迫力があって面白かったと興奮しながら話していました。

会場には多くの観衆が詰め掛けました

